



# 春夏秋冬



生徒数 10月1日現在  
1年生 230名  
2年生 185名  
3年生 149名  
合計 564名

吉川市立吉川中学校

2020年4月開校

「考える 蓄える 伝える生徒」

令和3年度 10月号

〒342-0038

住所 吉川市美南 5-17-1

電話 048-984-7565

## 「きへんにあか」で「りんご」と読む

校長 前田 稔

少し意地悪ななぞなぞです。「きへんにあか」でりんごと読むとします。「きへんにあお」でブドウと読むとします。では「きへんにきいろ」で何と読むでしょうか？

昼休みの廊下で、輪になって話をしている生徒らに会話のきっかけとして、このなぞなぞを出してみます。生徒たちはすぐに「レモン」とか「夏みかん」とか「バナナ」とか次々に答えます。1日の学校生活の中で昼休みは、生徒にとって独特の開放感があり活動的になり会話も弾みます。

2学期が始まり数日経ったある日、清掃を終えた生徒から「夏休みにこだわって見たことがあります」と声をかけられました。「夏休みは『コップ一杯の水を毎朝飲む』というくらい簡単なことでもいいからこだわってやり続けてごらん」という私からの提案に応じてくれたのだとすぐに分かりました。話を聞くと3年生のその生徒のこだわりは、「寝る前に、理科と社会の内容で覚えておきたいことをピックアップして頭に入れ、翌朝必ず復習してチェックすること」だったそうで、自分にとって満足できるものであったこと、もっと早く校長先生に伝えたかったことの2つを加えて、嬉しそうに伝えてくれました。いい1日でした。

学習の方法は人それぞれで、果たしてその方法が自身にとって最良の方法であるかどうかはわからないものかも知れません。自分の学生時代に「勉強は人間のいろいろな器官を使うとより身につく」と聞きました。声に出して読む、読むだけでなくあわせて手を使って書く、書きながら声を出す等の方法です。確かにそうだと思います。

さて、意地悪ななぞなぞに話を戻します。「答えは何ですか？」と聞く生徒に対して「じゃあ、実際に書いてみな」と助言をすると、答えを見つけニヤニヤと微笑む生徒が一人二人と増えていきます。もしも授業中に先生がこのなぞなぞを出したとき、実際になぞなぞの質問を聞くだけでなく、ノートにメモを取っている生徒がいたらどうでしょう？「きへんにきいろ」と書くと、そこには「横」という文字が現れます。これが意地悪ななぞなぞの答えです。手を使って書いたことの効果です。

授業中、黒板に先生が書いたこと以外に、先生が口頭で教えてくれたことや友達が発言した納得できる内容をノートに書き留めること、そうしてできた自分自身のノートを使って復習することは学力アップにつながります。

